

平成 29 年 6 月 13 日

## 山口新一郎賞受賞者の決定について

公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構  
(<http://www.nensoken.or.jp/>)

年金シニアプラン総合研究機構（東京都港区、理事長 西村周三）では、この度、山口新一郎賞を次のとおり授与することに決定しました。

今回の授賞は、受賞者の論文が、「年金と経済」誌に掲載された論文及び同誌以外に公表された論文の中で、特に優秀であると評価されたことによるものです。

受賞者 稲垣 誠一（国際医療福祉大学教授）

受賞論文 「高齢女性の貧困化に関するシミュレーション分析」  
（「年金と経済」誌第 35 巻第 3 号（平成 28 年 10 月発刊号）に掲載）

山口新一郎賞 賞状及び副賞 20 万円

授賞式 平成 29 年 6 月 15 日（木）午後 3 時より、当法人会議室にて  
（取材可・所要 15 分程度）

### 【お問い合わせ】

〒108-0074 東京都港区高輪 1 丁目 3 番 13 号 NBF 高輪ビル 4 階  
公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構  
（担当）総務企画部 亀山 宮田  
（電話） 03-5793-9411 （E-Mail）[soumubu@nensoken.or.jp](mailto:soumubu@nensoken.or.jp)

## 【受賞者のプロフィール】

氏名：稲垣 誠一（いながき せいいち）

役職：国際医療福祉大学教授

専攻分野：応用計量経済学、経済政策

経歴：1980年名古屋大学大学院理学研究科博士前期課程修了。2005年東京国際大学博士（経済学）。厚生省大臣官房政策課課長補佐、厚生省年金局基金数理室長を経て、2007年に年金シニアプラン総合研究機構研究主幹・審議役。2009年に一橋大学経済研究所教授。2016年より現職。61歳。

主な著書：『日本の将来社会・人口構造分析：マイクロ・シミュレーションモデル(INAHSIM)による推計』日本統計協会（2007年）

## 【受賞論文の要旨】

マイクロシミュレーションという手法を用いて、年金額分布の将来見通しと家族・世帯の将来推計を同時に行うことによって、将来の高齢女性の貧困率の見通しを推計し、貧困化の要因を分析した。高齢女性の貧困化は、現行の公的年金制度が前提としている、高度経済成長期までに確立した日本人の典型的なライフスタイルが大きく変容したことがその背景にある。このライフスタイルの変化は、1970年代後半から急速に進行し、結婚年齢の遅れや未婚化、少子化、離婚の増加など、当時は考えられなかったような著しい変化であったが、男女の雇用格差は残ったままであった。足元では、この新しいライフスタイルの世代が年金受給世代に到達していないことから、この問題は顕在化していないが、近い将来、顕在化・深刻化することを定量的に明らかにした。

(参考 1) 山口新一郎賞について

山口新一郎賞は、故・山口新一郎元厚生省年金局長のご遺族から当法人へのご寄付を原資に創設されたものです。山口元局長は、基礎年金を創設するなどの大改正を行った昭和 60 年年金改正法の立案及び成立に生命を賭して取り組まれましたが、成立を見ずに逝去されました。

山口賞は、年金の分野における優れた調査研究を奨励することを目的に、これまで次の方々に授与されました（肩書は受賞当時）。

第 1 回（昭和 60 年）：牛丸聡（青山学院大学講師）

第 2 回（昭和 62 年）：吉原健二（社会保険庁長官）

第 3 回（昭和 63 年）：清家篤（慶応義塾大学助教授）

第 4 回（平成 4 年）：渡部記安（日本生命不動産部調査役、東海大学法学部講師）

第 5 回（平成 18 年）：江口隆裕（筑波大学ビジネス科学研究科教授）  
（佳作として、上田憲一郎（三井住友銀行本店上席調査役））

第 6 回（平成 26 年）：山田篤裕（慶応義塾大学経済学部教授）

選定方法はこれまで変遷を経ていますが、現在は、平成 25 年 12 月 9 日の当法人理事会決議（「山口新一郎賞の今後の取扱い」）に基づき選定が行われます。すなわち、当法人が公益目的事業として発刊する「年金と経済」の編集委員長が、同誌及び同誌以外に掲載された論文の中から、編集委員からの推薦に基づき、同委員会の議を経て、特に優秀なものを選定し、その執筆者を受賞候補者とします。これが当法人理事会で承認され、授賞が決定します。

選定基準は次の通りです。

- ① 年金制度、年金資金の運用、年金受給者の生活等、公的年金及び私的年金に関連するもので、広く周知されることが望ましいと認められるもの。
- ② 次のいずれかに該当するもの。
  - ア 新規性・独創性が認められ、学術論文として年金分野における調査研究の水準の向上を図ることができるもの。
  - イ 年金問題についての知識や理解を深め、かつ、政策や実務に有益な影響を与えることができるもの。
- ③ 論旨が一貫し、主張や論点が明瞭で分かりやすく記述されているもの。

## (参考 2) 今回の選定経過

本年 4 月 24 日 (月) 開催の編集委員会 (委員長は高山憲之当法人理事・研究主幹) において、事前に寄せられた編集委員からの推薦論文のうち推薦数が多かった 2 編について審議されました。稲垣教授の論文は選定基準の 3 つをいずれも満たしていることが確認され、出席者の総意として同教授を受賞候補者とする事となりました。

本年 5 月 23 日 (火) 開催の当法人理事会でこれが承認され、授賞が決定しました。

このことを本日開催の当法人評議員会に報告し、公表に至りました。

なお、今回の決定に至る過程で、稲垣教授の論文に対しては、次のような評価がありました。

- 本論文は、わが国における将来の高齢女性に着目し、ダイナミックマイクロシミュレーションによって、その貧困率を計量的に考察すると同時に貧困化の要因を分析した秀逸なペーパーである。未婚・離婚の女性が増える一方、非正規雇用者が多く、基礎年金水準が低下していくこともあり、高齢女性の貧困率は今後、上昇していくことを具体的な計数つきで明らかにした。
- 本論文は、マイクロシミュレーションという手法を用いて、将来の高齢者の所得分布等の推計に取り組んだものであり、意欲的な学術論文と認められ、その着眼点や新規性は評価できる。
- 将来の女性が貧困化する等の本論文の結論部分については、今後の人口動態や経済成長、厚生年金の適用割合の上昇など様々な要因により変わらうものと考えられ、さらに精査も必要と考えられる。実際、これまでの老齢年金受給者の中で「基礎年金のみ」を受け取る割合は一貫して減少している上、近年は第 2 号被保険者数も増加している。今後も、女性や高齢者の労働参加の進展や、被用者保険の適用拡大の動きに伴い、厚生年金を受け取ることのできる高齢者は増え、その厚みも増していくことが想定される。このような影響についても考慮する等、さらに様々な角度から分析を加えるなど、今後のさらなる研究の深化と発展を期待する。

(以上)